

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度前期）短期大学部

記入年月日	2014 年 8 月 19 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： (○) 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1年 () 2年
授業科目名	情報リテラシー入門
担当教員名	板倉 文彦

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

当科目は情報活用検定にも適応しているため、専門的な内容が含まれている。そのため学生にとっては難しく感じる人が多いと想定される科目である。講義途中（2014年6月）に行った評価アンケートでは、他科目と比較して特に「この授業の理解度はどうですか」と「授業内容に興味や関心は持てましたか」という項目の値が低くなっていた。また、コメント欄においても内容が難しいとの記述が見うけられた。

評価結果を受け、以下の点に注意して講義を実施した。

1. 難しい内容の部分は、具体例を増やすなどして丁寧な説明につとめる
2. 理解度を深めることを重視し、内容を絞り込む
3. 学生の理解状況を確認するために、必要に応じて教室を回る
4. 可能な限りPCでの実習を取り入れる

上記対策を実施した結果、学生からは「むずかしいと感じた箇所もありましたが、説明がていねいで分かりやすかったので、よい勉強になりました。」とのコメントが寄せられた。しかし一方では、「苦手分野の所はなんとなくわかったかな位(程度)しか理解できなかった」といったコメントもあり、さらなる対応の必要性が感じられた。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度前期）短期大学部

記入年月日	2014年8月27日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： (○) 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1年 () 2年
授業科目名	日本語の基礎
担当教員名	大塚 みさ

記入欄

1. アンケート概要

6月19日(水)2限に無記名アンケートを実施。履修登録者数29名、回答者(=出席者)数26名。

2. 調査対象科目と選択理由

標記科目は学科基幹科目群の必修科目であり、共通シラバスを元に4クラスで開講されている。

今回の調査にこの科目を選んだ理由は以下の通りである。

- ・後期に後継科目が設置されているため、継続的な調査が可能である。
- ・必修科目である(興味を持つ学生が受講する選択科目とは異なる)ため学生の意欲の差が大きく、その分多様な意見があると考えられる。また、学生の学力、学習習慣の差も現れやすい科目である。

3. 調査項目と調査結果

調査後すみやかに授業改善を行うために、「一般的フォーマット」の調査項目(①～⑦、⑪)に具体的な授業内容に関する意識・意見を問う項目(⑧⑨⑩)を加えた。以下にその集計結果(末尾に付録としてグラフを添付)を示す。あわせて、①～⑩の回答の根拠を具体的に記入する自由記入欄を設けている。

		5 そう思う	4 まあ そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 そう 思わない
①	この授業の予習や復習をする習慣がある	5	4	10	7	0
②	教員の話し方・内容はわかりやすい	12	8	3	3	0
③	授業の進行スピードは適切である	12	9	3	2	0
④	授業内容はよく理解できている	6	12	5	3	0
⑤	自分の受講態度はよい	4	12	4	5	1
⑥	この授業を受講して、新しい知識・技能・学力が身についている	10	8	6	2	0
⑦	この授業を受講してより興味を持ち、さらに深く学びたいと感じている	6	9	6	5	0
⑧	漢字小テストは役に立っている／有意義である	12	12	2	0	0
⑨	文法や敬語等のプリントは役に立っている／有意義である	11	11	3	1	0
⑩	ライティングトレーニングは役に立っている／有意義である	11	12	2	1	0
⑪	総合的に見て、この授業に満足している	11	10	3	2	0

4. 調査結果の分析

【一般的調査項目】①～⑪

おおむね良好な評価を得ていると考えられる。以下に肯定的な回答（**5**、**4**）の合計が80%に満たない項目について検討したい。

①（授業の予習・復習）に相当するのは漢字小テストの準備であるが、これにあまり時間を割かなかった者およびそれがこの調査項目に該当すると気づかなかった者の評価が低く出たと思われる。アンケート実施後の試験期間にはレポートの書き方を意識的に復習する者もあったが、日頃から自然に復習に臨める体制を整えていく必要があるだろう。⑤（授業態度）には個々人の評価基準の相違もしくは授業出席状況が反映されていると考えられる。

⑦（興味）は**2**が5名おり、他に比べて満足度が低い、この科目が教養系科目とは異なり興味や関心を持ちやすい科目内容ではない点で納得できる。⑥や⑧～⑩の評価と比較すると、少なくとも当該科目に関しては実用性が重視されているようである。自由記述欄にも「役に立つ」「ためになる」という表現が目立った。

【具体的な授業内容に関する評価】⑧⑨⑩

シラバスに掲げる「敬語と表現のマナー」等の授業内容に加えて、毎回実施している小テストやワークの類いについての意識を尋ねた。いずれも有意義だという回答（**5**、**4**の合計）が80%を超えている。⑧（漢字小テスト）は学科で決めた漢字検定の級を対象に実施しているが、自由記述欄にはレベルを上げて欲しいという希望が見られた。⑨（文法や敬語の問題プリント：小テスト等が早く終わった学生が取り組めるよう配付、問題の難易度は複数設定し、自習できるよう解答を授業プリントに掲載）と⑩（ライティング：添削して翌週返却）は学生の学力差に合わせた指導のために実施しているが、自由記述欄にはその有用性についての肯定的意見と継続的な実施を希望する意見が多く見られた。

5. アンケート実施後の改善点と取り組み

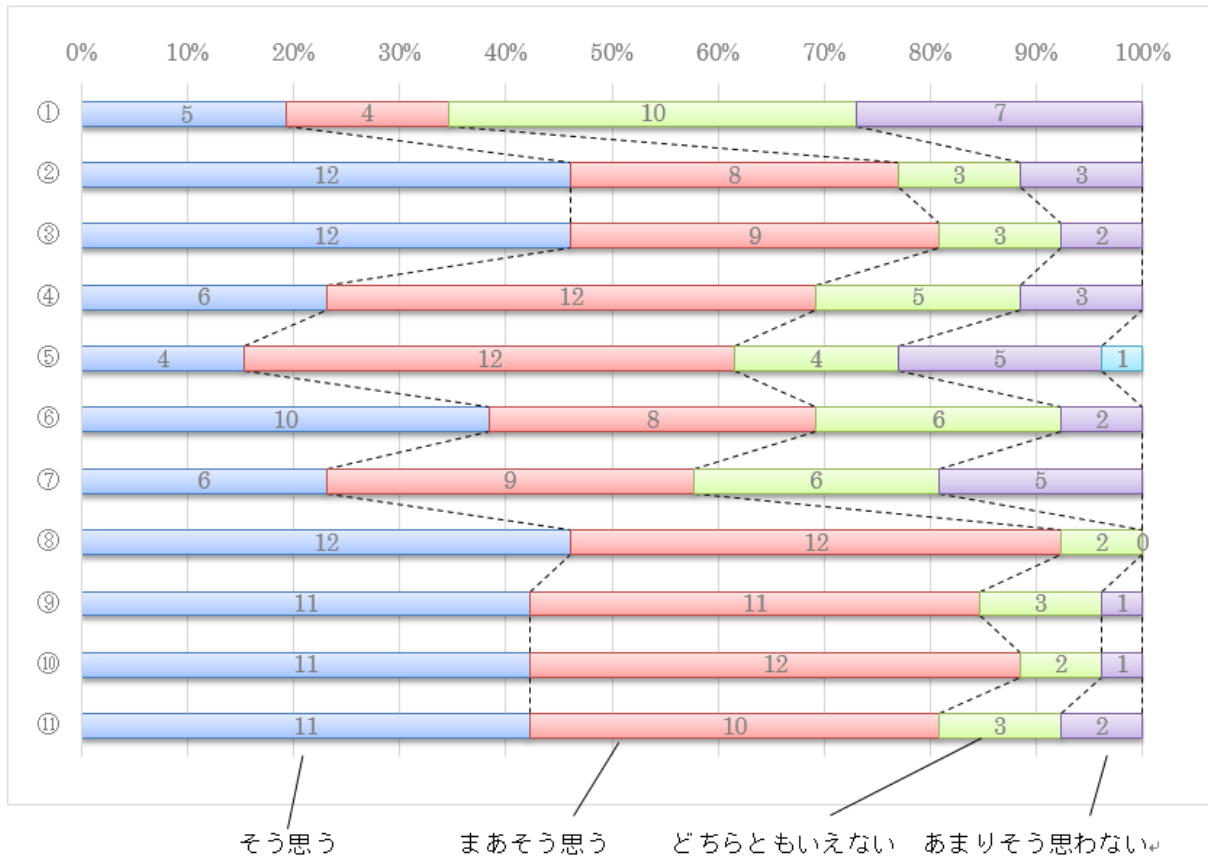
- ・アンケート結果の報告と、改善方針の提示。
- ・ライティングの時間確保のための漢字テストの分量調整（自由記述欄においても評価が高く希望の声が多く上がっていたライティングトレーニングに十分な時間を割くため。）
- ・漢字テストレベルの再検討。
- ・最終回のアンケート実施。

6. 今後の課題

- ・アンケートから学生のニーズと併せて、学力や意欲の差を比率として把握できたが、改めてそれらを踏まえたレベル設定の困難さが実感された。当該科目は必修科目であるため、学力や意欲の高い層の満足を得つつ下位層をきちんとサポートできる授業の工夫が依然として大きな課題である。
- ・学生たちは実用性が高く即効性が感じられる学習内容に満足を得やすいようである。もちろん積み重ねて培うべき項目も少なくないが、「役に立つことを学んでいる」ことが良い動機付けになれば学生たちの主体的な学びを喚起しやすいと考えられるので、その効果を高めるべく工夫を凝らしたい。
- ・小テストや隙間時間に取り組むプリント、ライティング等、学生のレベルに合わせた対応をしやすいが部分での工夫を凝らしたい。また、メインとなる授業内容での演習量を増やし、そこでレベル別対応を行うことも検討していきたい。

以上（次ページにグラフ掲載）

付録：集計結果のグラフ



授業改善等に関する報告書（26年度前期）

記入年月日	2014年 8月 29日
科目区分	共通教育科目：（ ）必修 （○）選択
対象学年	（○）1年 （○）2年 （○）3年 （○）4年 *単位互換科目
授業科目	女性と古典文学
担当教員	佐藤辰雄

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記 入 欄

授業の充実及び改善を目指して、下記の2点を実行している。

- (1)授業の終わりに、①授業内容の要点記述2項（各項とも50～80字）と、②所感・連想・発見等を書いて提出させている（毎回）。
 - 要点記述では、理解の程度や正鵠か否かを測り、甚だしく誤解・不理解のことがあれば、翌週に話題提供し矯正している。〈再説〉
 - 所感等では、特筆すべき観点や重要な指摘を翌週に紹介し、知識と思索の広がりを図る。〈知見〉また、授業改善や環境改善の要望も受け入れ改善に努めている。
- (2)学生に対する「授業アンケート」を実施した（1回）。アンケートのねらいは、学生がどれほど意欲的かつ主体的に受講しているか、改善を望んでいるかを知ることにある。質問項目は以下の通り。
 - 1.事前学習ないし事後学修をしていますか。該当する番号を○で囲んでください。
 - ここでいう事前学習・事後学習とは、教科書や授業で紹介した本、或いは授業内容に関わる本を読むことも含みます。
 - 2.君はホワイトボードに向かって、どの辺りの席で授業を受けることが多いですか。（9種類の選択肢から選ばせる。詳細省略）
 - 3.－i 授業内容や板書・声の大きさ等、教員に改善を望むことがありますか。あれば具体的に記入してください。
 - 3.－ii 前項で①と答えた人に尋ねます。改善の為に何かをしたことがありますか。

【学生の要望と教員の改善】

- 板書の字が薄い・小さい ⇒ 大きく板書するよう改めた。太字のマーカーを事務に要望。
- 崩し字や省略字は困る ⇒ 崩し字は改めた。略字は、社会でも通用する略字故に改めない。その代わり、話をよく聞いて内容と字とを対応させ、略字にも慣れるよう答えた。
- ホワイトボードの字が反射してみにくい ⇒ 特段の対応策無し。思案中。
- 板書がアッチコッチに飛んで分かりにくい ⇒ 右側から書記するように注意している。
- 黒板の方が見易く良かった ⇒ 聞き置くしかできず。

【学生自身の改善】

- 座席を代える（前の席や中央席へ）。
- 眼鏡をかける。

授業改善等に関する報告書（26年度前期）

記入年月日	2014年 8月 29日
科目区分	学科専門科目：（ ）必修 （○）選択
対象学年	（○）1年 （○）2年 *英語コミュニケーション学科の学生も受講可
授業科目	日本文学の歴史Ⅰ古代
担当教員	佐藤辰雄

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記 入 欄

授業の充実及び改善を目指して、下記の2点を実行している。

(1)授業のおわりに、①授業内容の要点記述2項（各項とも50～80字）と、②所感・連想・発見等を書いて提出させている（毎回）。

○要点記述では、理解の程度や正鵠か否かを測り、甚だしく誤解・不理解のことがあれば、翌週に話題提供し矯正している。〈再説〉

○所感等では、特筆すべき観点や重要な指摘を翌週に紹介し、知識と思索の広がりを図る。〈知見〉また、授業改善や環境改善の要望も受け入れ改善に努めている。

(2)学生に対する「授業アンケート」を実施した（1回）。アンケートのねらいは、学生がどれほど意欲的かつ主体的に受講しているか、改善を望んでいるかを知ることにある。質問項目は以下の通り。

1. 事前学習ないし事後学習をしていますか。該当する番号を○で囲んでください。

（ここでいう事前学習・事後学習とは、教科書や授業で紹介した本、或いは授業内容に関わる本を読むことも含みます。）

2. 君はホワイトボードに向かって、どの辺りの席で授業を受けることが多いですか。

（9種類の選択肢から選ばせる。詳細省略）

3. - i 授業内容や板書・声の大きさ等、教員に改善を望むことがありますか。あれば具体的に記入してください。

3. - ii 前項で①と答えた人に尋ねます。改善の為に何かをしたことがありますか。

【学生の要望と教員の改善】

○板書の字が薄い・小さい ⇒ 大きく板書するよう改めた。黒字以外も太字のマーカーにするよう事務に要望。

○崩し字や省略字は困る ⇒ 崩し字は改めた。略字は、社会でも通用する略字故に改めない。その代わり、話をよく聞いて内容と字とを対応させ、略字にも慣れるよう答えた。

○板書がアッチコッチに飛んで分かりにくい ⇒ 右側から書記するように注意している。

【学生自身の改善】

○座席を代える（前の席や中央席へ）。

○眼鏡をかける、目を細める、目をパチパチする、コンタクトの位置をずらす。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度前期）短期大学部

記入年月日	2014 年 8 月 20 日
科目区分 (該当するものをに○)	共通教育科目： (○) 必修 () 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものをに○)	(○) 1 年 () 2 年
授業科目名	実践入門セミナー
担当教員名	高瀬 真理子

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記 入 欄

総数 18 名

- ・ 予習復習を「全くしない」のが 8 名、44.4%。

「たまにすることがある」9 名、50%。

「ほぼ毎日する」が 1 名、5.6%

- ・ 授業の難易度について

「理解できないときがある」7 名、38.8%

「ほぼ理解できる」10 名、55.6%

「易しい」1 名、5.6%

- ・ 授業の進行スピードについて

「やや早い」3 名、16.7%

「ちょうど良い」15 名、83.3%

以上がデータであり、要望は特になかった。

教員側から言えば、基礎中の基礎であり、特に難しいものはないはずだが、たとえば、自分の今の姿をより高次の自分が捉えて考える「メタ認知」のような抽象的な語彙は、理解するのに骨が折れたらと思う。だからといって、アカデミック・ライティングやプレゼンテーションに堪えうる論理的で抽象的な概念の語彙も使いこなしていく必要があり、そういう意味では「理解できないときがある」のも「やむなし」であり、受講生側も理解する努力が必要である。予習復習を「全くしない」という学生が 40 パーセント以上いるので、これらの語彙については、予習復習を前提とするような取り組みが必要であると思うので、その点を改善していきたい。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度前期）短期大学部

記入年月日	26年 8月 20日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： (○) 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	() 1年 (○) 2年
授業科目名	卒業研究
担当教員名	高瀬真理子

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

総数 15 名

・予習復習を「全くしない」のが 1 名、6.7%。

「たまにすることがある」11 名、73.3%。

「ほぼ毎回する」が 1 名、6.7%

「毎回する」が 2 名、13.3%。

・授業の難易度について

「ほぼ理解できる」12 名、80%

「易しい」3 名、20%

・授業の進行スピードについて

「早い」1 名、6.7%

「ちょうど良い」14 名、93.3%

以上がデータである。

卒業研究では、ソフトや印刷機等に対する要望が多く寄せられた（複数回答あり）。一教員のできることを越えているので、判断は委員会へ委ねる。

・ソフトの要望

「フォトショップ」2 名

「イラストレーター」2 名

「インデザイン」(or Mac) 1 名

・機材の要望

ペンタブ 3 名

紙折機 2 名

・印刷機への要望

高性能のものがほしい（現状のものは薄いなど）6 名

カラーコピー機の台数を増やしてほしい 6 名

その他：学内の PC 台数の増加、ラウンジで B5 の印刷、良質の印刷紙など、各 1 名ずつ要望があった。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度前期）短期大学部

記入年月日	2014年8月4日
科目区分 (該当するものをに○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 (○) 選択
対象学年 (該当するものをに○)	(○) 1年 (○) 2年
授業科目名	情報サービス論
担当教員名	西脇智子

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

1. アンケートの集計結果について

①この授業の内容については、33名中、15.2%にあたる5名が「むずかしい」、81.8%にあたる27名が「適当だ」、3.0%にあたる1名が「やさしすぎる」と判断していることがわかった。

②配布資料については、33名中、6.1%にあたる2名が「むずかしい」、90.9%にあたる30名が「適当だ」、3.0%にあたる1名が「項目の記述だけでよい」と判断していることがわかった。

③その他：授業に対する意見・要望については、「レポートの書き方等、丁寧に説明してくれて、とても親切だと思いました。／今まで考えてこなかったことを考えることができ良いです。レポートやテストがんばっていきたいです。／内容は難しいけれど、プリントや先生の説明があるため、理解できる。／授業内容に不満はありません。むしろ感謝するほど丁寧です。／いつも資料が配られるので、わかりやすいです。」等の自由記述があった。

授業の内容は、初めて学ぶ事柄が多いものと推察できる。できるかぎり「学びたい」という意欲につながるような導きとなるよう、常に丁寧に説明するように努めた。

④授業内容と配布資料の相関について

↓配布資料 授業内容→	むずかしい (5名)	適当だ (27名)	やさしすぎる (1名)
1. むずかしい	1名	1名	0名
2. 適当だ	4名	26名	0名
3. 項目の記述だけでよい	0名	0名	1名

今般の調査から、授業の内容が「むずかしい」と回答した5名の履修生のうち1名は、配布資料も「むずかしい」と判断していることがわかった。しかし、授業の内容が「むずかしい」けれども、4名の履修生は、配布資料は「適当だ」と判断していることもわかった。また、授業内容も配布資料も「適当だ」と判断している履修生は27人中26人であることがわかった。

授業改善としては、授業内容が「適当だ」と回答した履修生のうちで、配布資料を「むずかしい」と判断している履修生や、授業内容が「むずかしい」と回答した履修生で配布資料も「むずかしい」と判断している履修生への対応である。個別性の高いニーズにできるかぎり対応し、とくに質問にきてくれ

た履修生に対しては丁寧に答えるように努力した。

授業内容が「やさしすぎる」と回答した履修生もあることから、授業内容または配布資料のなかに「さらに学びを深める」ための糸口として文献紹介等を補足した。

授業内容は、初めて学ぶ事柄が多いため、わかりやすさを探求した。見やすいパワーポイントになるよう意識して作成し、丁寧に解説するように試みた。授業教材は、予習復習時にも活用してもらえるように配慮し、資料を配布した。

とくに教育効果をめざした取り組みとしては、履修生の関心度に照らして、ビデオ教材等を活用し、「もっと知りたい」というニーズに対応できるように試みた。また演習を組み合わせることで授業内容の理解度を増していけるように教材を選出した。授業内容に対する履修生の関心度を高めることができると、授業内容に対する理解度も上がる。

授業に対するモチベーションの高さは教育効果に結びつくものであることを教えてくれた履修生から得られた導きは大きい。履修生といっしょに「もっと知りたくなる」授業を展開できるよう、今後も努力を重ねていきたい。

以上